

画像比較を用いて迅速に被災箇所を検出する

福島県立福島高等学校SS部ドローン班 齊藤まりあ 大塚千紘

1 序論

日本は世界的にも地震や火山活動が活発で、梅雨や台風の時期には集中豪雨が起ることも珍しくない、自然災害が多い国である。

《リサーチクエスチョン》

同じ地点をドローンで撮影し、その画像を自動で比較する方法を確立することで、**迅速な被害状況の把握**に活用できないか？

《現在の画像比較の問題点》

- ・画素が少しでもずれると完全一致とはいわない
- ・同じ場所を異なる日時で撮影した画像や、ドローンで撮影した画像は、撮影角度が違うために正確に比較できない

《求める画像比較の正確性》

- ・目視確認のように、角度や明るさなどの撮影した状況に左右されない
- ・比較対象の移動や損傷など、物理的な変化のみ画像から判断できる

最終目標

災害前後に撮影した2枚の画像を自動で比較することで、災害時に被災箇所を発見するシステムを構築する



2 研究手法

災害前後と仮定し、対象物に意図的に加えた変化を差分として、ドローンを用いて画像を撮影する。その後、自動画像比較によって設定した差分を検出する。

3 実験の内容と結果

【実験1 自動画像比較ソフトの作成、比較】

自動画像比較ソフト“ImageMonitor”をJavaにより作成し、画像の組①、②をそれぞれ比較した。



《結果》

画像①	画像②

【実験2 OpenCVを用いた比較】

(1) 画像①、②の比較

実験1と同じ条件で比較を行った。

(2) テンプレートマッチング(※注1)による比較

画像②をグレースケール化し、画像Aを探索画像、その一部を切り出したものをテンプレート画像として、探索画像内におけるテンプレート画像の位置を調べた。

(3) 射影変換(※注2)による比較

異なる日時に撮影した画像①間の撮影角度のずれの修正を試みた。

※注1 テンプレート画像に一致する部分を見つける手法。

※注2 任意の形の四角形から別の形の四角形にする変形。



《結果》

	画像①	画像②
(1)		
(2)		
(3)		

4 まとめと結論

実験1：画像比較の際、対象物の角度が合っている画像を使用する必要がある。

実験2：撮影角度の異なる画像同士の比較において、射影変換は有効であったが、正確性を求めるためには座標の正確な設定が必要。

実験3-1：比較した際の数値に大きな差があったため、検証できなかった。しかし、現時点では、比較する際はヒストグラム比較が適していると思われる。

実験3-2：正確な座標の設定はできなかった。

比較の条件

- ①撮影角度が一致している
- ②射影変換によって角度を修正

- ・射影変換の有効性の検証にはヒストグラム比較
- ・マーカーを事前に設定し、色検出で取得した点を用いれば、座標をより正確に設定できるのでは？

5 参考文献

OpenCVとNumPyで2つの画像を比較（完全一致、部分一致の比率）(2021.12.14)
<https://office54.net/python/module/opencv+numpy+compare>

Python-OpenCVで射影変換する方法を例題と画像で解説！(2021.12.14)
<https://kaibutsusyain.com/how-to-perform-projective-transformation-with-python-and-opencv/>

東日本大震災からの課題と対応の現状(自治体ICTの側面から)(2021.12.14)
https://www.kantei.go.jp/jp/singi/it2/senmon_bunka/bousai/dai2/siryou3.pdf